

「仏教に関する実態把握調査」

（二〇二〇年度）臨時調査①

日本テンプレヴァン(株)井上拓郎

「お盆法要について」

全国的に新型コロナウイルスの感染者は増加しており、再び緊急事態宣言が発令されました。昨年も四月七日から五月二十五日まで第一回目の緊急事態宣言が発令され、四月十六日には対象地域を全国に広げて、全ての都道府県で生活に必要な最低限の外出にするよう自粛を求められました。これにより皆さまのご寺院でも、予定していた法事を中止や延期にされたお檀家さまがいっぱいだったのではないのでしょうか。また法事に限らず、ご寺院で予定されていた例年の行事を取りやめたり、延期にされたりと、コロナの影響によって、皆さまにも様々なご苦労があったことと拝察致します。

昨年の八月に公益財団法人全日本仏教会（全仏）と大和証券株式会社が「新型コロナウイルス感染症が仏教寺院に与える影響」として「仏教に関する実態把握調査（二〇二〇年度 臨時調査）」でコロナ禍における一般回答者の調査結果が上がっておりましたので、ご紹介したいと思えます。この報告書は、全国の二〇〜七九歳の男女を対象として、六一・九二（事前調査は一万）の回答数を資料に纏めたものになります。（報告書は全仏のホームページにも

掲載されております）

●お盆の実施状況（お経をあげてもらっているか）

お盆にお経をあげてもらっているかについて（菩提寺の有無にかかわらず）、例年では三一・四％の方が、毎年あげてもらっていた、または節目でお経をあげてもらったと回答したが、昨年は二〇・二％に減少しており、コロナの影響が窺えます。またこの回答者の中でも、菩提寺ありの方のほうの実施率は当然高く（四三・九％）、地方の方のほうの実施率が高い傾向にありました。感染者が少ない地方の菩提寺のほうの影響は少ないのかも知れません。今後の実施予定については、コロナの状況にかかわらずお経をあげてもらう予定と、コロナが収束したらお経をあげてもらう予定が合わせて二五・八％あり、コロナが収束した場合には、昨年を上回る数字となりました。

●今後の実施状況予測（例年お経をあげてもらっている方のみ）

菩提寺が有る方で、例年お盆にお経をあげてもらっている方と、節目でお経をあげてもらっている方は合わせて四三・九％おり、この中から昨年お盆にお経をあげてもらった方は、五四・六％に留まりました。例年お盆にお経をあげてもらっていた方でも、昨年は半分くらいの方しか実施しなかったこととなります。また今後の実施予定としては、コロナが収束したらお経をあげてもらいたい（二五・六％）と、コロナの

状況にかかわらず、お経をあげてもらう予定（四四・九％）が合わせて七〇・五％となっておりますが、四人に一人がコロナの状況によって影響されるという回答でした。

「お盆のお布施について」

●お盆のお布施の支払い状況（お盆にお布施を支払った割合）

お盆にお経をあげてもらいお布施を支払った人は、例年支払っている八四・二％、昨年も支払った八四・一％、今後も支払う八三・七％となっております、大きな変動はありません。金額については、例年約一・四万円、昨年約一・三万円と減少傾向でしたが、今後では約一・六万円と微増になっております。昨年お経をあげてもらわなかった方々が、今年はお経をあげてもらいたいという気持ちの表れなのかも知れません。

●お布施の金額（昨年と今後の予測）

例年お布施を支払っている人のお布施の総額を基準（一〇〇％）とした場合、昨年支払ったお布施の総額は四七・六％と半分以下に減少していました。しかし、今後支払うお布施では六八・三％と昨年より増加しており、例年に比べて減少しているが、昨年よりは増加するとの結果が出ました。少しずつでも元に戻ることを切に願います。出典「仏教に関する実態把握調査（二〇二〇年度）臨時調査」（公財）全日本仏教会、大和証券（株）